

# 近畿大学 原研 NEWS

Kinki University Atomic Energy Research Institute

第8号 2009.10

## 原子力研究所、第1回原子力歴史構築賞を受賞

日本原子力学会が創立50周年にあたり、原子力の平和利用に貢献してきた原子力関連施設や事績、資料を特定し、その果たしてきた役割を広く周知し顕彰する、「原子力歴史構築賞」の第1回表彰で、近畿大学原子力研究所が「近畿大学原子炉の原子力人材育成・社会啓蒙への貢献」として受賞しました。

「第1回原子力歴史構築賞」の受賞を受けて

原子力研究所 所長・教授 伊藤哲夫

わが国唯一の研究・教育訓練用である近畿大学原子炉は、昭和36年11月に大学・民間第1号原子炉として初臨界に達しました。以来、研究活動をはじめ、本学および他大学学生に対する原子力人材育成教育さらに初等・中等教育教員や社会人に対する原子力啓発活動に活用され、原子炉運転経験者が延べ約1万2千人に達しました。このたび、長年にわたる「近畿大学原子炉の原子力人材育成・社会啓蒙への貢献」が認められ、日本原子力学会創立50周年を記念して、「第1回原子力歴史構築賞」を受賞いたしました。今後、我々は初代総長世耕弘一先生の「実学」の理念をしっかりと受け継ぎ、更なる発展のため精進していく所存であります。



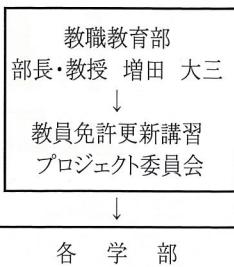
### 教員免許状更新講習を開設しました

原子炉を用いたエネルギー・放射線体験講習(選択領域)は原子力研究所教員が講師を務めています。日本原子力産業協会・関西原子力懇談会の協賛により交通費、宿泊費を実費支給しています。

#### ○ 教員免許更新制の概要

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月1日から教員免許更新制が導入される事になりました。教員免許更新制は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技術を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すものです。修了確認期限前の2年間に、大学などが開設する30時間の免許状更新講習を受講・修了した後、免許管理者に申請して修了確認を受ける必要があります。受講者本人の専門や課題意識に応じて受講することとなっています。

学校法人近畿大学



原子力研究所 免許状更新講習の講師

所長・教授 伊藤 哲夫	
橋本 憲吾(教授)	堀口 哲男(講師)
伊藤 真(教授)	納富 昭弘(講師)
中田 早人(准教授)	杉山 亘(講師)
杉浦 紳之(准教授)	芳原 新也(講師)

### 目次

- |              |            |
|--------------|------------|
| ○ 原子力歴史構築賞受賞 | ○ 保健物理学会開催 |
| …1ページ        | …2, 3ページ   |
| ○ 教員免許状更新講習  | ○ お知らせ     |
| …1ページ        | 行事報告等      |
|              | …4ページ      |

# 日本保健物理学会大阪大会を開催しました

## 日本保健物理学会第43回研究発表会を開催して

大会長 伊藤哲夫

### 1. はじめに

2009年6月3日(水)、4日(木)、シェラトン都ホテル大阪において第43回研究発表会を開催致しました。会期直前に関西地区において新型インフルエンザが集団発生するという混乱もありましたが、お陰様をもちまして270名の参加者をお迎えとともに、28の企業・団体から多大な協賛・協力を賜り、無事開催することができました。以下、研究発表会を開催しての感想を述べさせていただきます。

### 2. 開催の打診

2007年のそろそろ寒い風が吹き始めた頃、学会副会長である当研究室の杉浦先生から「沖縄大会の次、2009年の保物の研究発表会、そろそろ関西でやる番だから、大会長をお願いできませんか。」と打診がありました。聞けば、関西圏での開催は小田前会長が大会長を務めた2004年の神戸大会以来、5年ぶりとのこと。関西地区では古くより保健物理関係者の強いネットワークが根付いており、近畿大学としても名誉会員の西脇安先生や理事経験者の本田嘉秀先生をはじめ非常に多くの方々が保物学会において活躍してきたところです。

原子力エネルギー、原子力分野の人材育成というキーワードが聞かれるこの時期に、関西に深く根付いている保健物理関係の方々が今一度心をひとつにして、大きな行事をやらせていただくのも良いことと考え、お引き受けすることとしました。その意図は、「しばらく休んでいたけれど、再入会します。」、「久し振りに、ポスターを出します。」などと、図らずも予想以上の成果が得られたようです。

### 3. 準備の開始

#### 1) 会場の手配

まず考えたのは、どんな学会にするかでした。これについては、「特別なことはしない。派手なことはしない。淡々とこなす。ロジスティックスさえ用意すれば、中味は参加される学会員の方々が作ってくれる。」と考えました。この考え方に基づき、会場は近畿大学の11月ホールを当初確保しました。11月ホールは収容人員1200名の大ホールの他、中ホールや種々の会議室を備えており、国際会議の会場としても使える立派なものです。大学を会場として行う唯一の難点が懇親会でした。街中に移動すれば参加人数はおそらく減ってしまうだろうし、学内で行うとすれば大学食堂で唐揚げ中心のメニューになるけど仕がないかななど…。

そういううち、保物学会では法人制度の検討が進められ、検討が最も早く進めば、研究発表会にあわせて開かれる総会において、法人化の決議がされるかもしれませんと聞かされました。可能性は分からぬけれど、組織としての節目の祝賀的な意味合いのある懇親会に、メインのメニューが大学食堂の唐揚げでは、将来が思いやられます。急遽、シェラトン都ホテル大阪の空き状況を聞き、研究発表会のサイズに見合った部屋を確保しました。「これで、懇親会は安心だ。」もっとも、一流ホテルを使うことにより会場配置・設営や案内など実行委員会側の負担は相当に軽減されますので、この会場変更は正解であったと考えています。

#### 2) 実行委員会

次に、実行委員会の組織です。近大内の昔からの学会員だけでなく、近大原子力研究所の教員には全員、保物学会に入会してもらい、実行委員をお願いしました。外部からは、主としてプログラム担当をお願いする大学・研究所の先生方、主として会場関係をお願いするメーカー・企業の皆様方にお願いし、実行委員会は総勢32名を数える多くの皆様にご協力を頂きました。実行委員会の会合は都合6回にのぼりましたが、毎回出席率は9割を超える、より良い企画へとアイデアを出し合い、また心配事は些細なことまでひとつひとつぶしていました。回を重ねるごとに、当日の会場の様子が実行委員の皆様の頭の中にも浮かび、当日のスムーズな運営に結びついたとともに、実行委員会としての一体感も生まれてきました。関連企業からはさらに、当日、実行委員以外に現地委員として会場係など21名の方にお手伝いを頂きました。実行委員、現地委員の皆様には、この紙面をお借りして深く御礼を申し上げたいと思います。

### 日本保健物理学会 第43回研究発表会



懇親会でのひとコマ。「大阪うまいもんの歌」を合唱。

#### 4. 新型インフルエンザ勃発

GWが明けて、PCを中心とした機材・備品の準備、当人の人員配置、進行の打合せなど、細々とした時間のかかる作業に近大原子力研究所の実行委員は取りかからなければいけない時期となりました。そこへ新型インフルエンザが神戸・大阪を襲ったのです。大学は1週間の臨時休校となり、メディアは毎日、兵庫で何人、大阪で何人新たに発症と報道します。会員諸兄から「予定通りに開催するのか。」、「所属機関から大阪方面への出張自粛勧告が出されたので、発表をキャンセルしたい。」と様々な問い合わせが寄せられました。府内の学校の休校など最も緊迫した時期から開催まで2週間あったので、必ずや事態は沈静化し、予定通りの開催はできるものと信じていましたが、理事会とも協議の上、事態の推移を慎重に見極めていくこととしました。もし、あのまま感染が拡大していたら、延期あるいは、参加者激減で大赤字覚悟の開催となっていました。幸いにも一旦沈静化の様相を示し、大きな混乱もなく、無事に大会当日を迎えることができました。

#### 5. 大会の概要

話が途中になってしまでしたが、会場を変更し、実行委員会で議論を進めるうちに、研究発表会のメインテーマが必要と感じるようになりました。法人化の検討が進む中で保物学会の組織としての現状と将来像、そして、そこで高度化され広く展開・実践していく学問としての保健物理について考える機会として頂きたく、「保健物理の今とこれから」をメインテーマとしました。

学会の中韓連携プログラムにより2カ国を招聘する順番と言うことで、「アジアの放射線防護の現状と将来」のシンポジウムを初日のメインイベントとしました。ビザの関係から中国からご参加頂けなかったことが残念でした。その他、学会の常設委員会、専門研究委員会、若手研、学友会など活発に活動が推し進められており、企画セッションのお申し出が本当に数多くあり、口頭発表を含めて時間枠に割り振ると、会場の空き時間はほとんど残らない状況でした。しかしながら、常々保健物理(学会)では原子力分野と同様に医療領域の放射線防護も大切な一分野であるべきだと考えていましたし、寄せられた企画のテーマ一覧から唯一手薄ではないかと考えましたため、実行委員である近畿大学医学部の細野眞教授にとりまとめをお願いし、実行委員会企画シンポジウム「放射線の医療利用と最先端とその安全」を企画しました。

紙面の余裕がなくなっていましたが、どうしても触れておかなければいけないのが、懇親会です。沖縄大会の

際のご挨拶で「大阪らしく、近大らしく」と申し上げました。近大らしくには、水産研究所が世界に誇る「完全養殖マグロ」を幸いにも手配することが叶い、皆様にご賞味頂くことができました。マグロに若干かすんでしまいましたが、同じくカンパチやキンダイ(近大による交配種)も覚えていて頂ければうれしく思います。大阪らしくについては「大阪うまいもんの歌」を用意しました。韓国からのゲスト、Na先生は耳についてしまったらしく、翌日、司会をした杉浦先生にもう一度歌ってくれと言ったとか…。

優秀ポスター賞の副賞(豪華賞品?)としてお出しした近大原子力研究所のマスコット「1ワットくん」を末永く可愛がって頂ければ幸いです。



#### 6. おわりに

人類にとって必要不可欠なエネルギー源の有力な選択肢である原子力を支える保健物理、また医療をはじめ様々な放射線利用においても欠かすことのできない保健物理、21世紀の安全・安心な社会を確固たるものとするためになくてはならない保健物理。我が国においてその発展の中心的役割を果たしてきたのが保健物理学会であると信じています。慣例により議長を務めさせて頂きました総会の議論を拝聴して感じるところですが、公益法人制度の改正という個別の理由にとどまらず、現代の社会の大きなうねりの中で、組織や団体はその存在意義を活動の成果としてはつきりと示していくなければならない、非常に厳しい時代を迎えていると思います。現執行部はその対応として、学問としての研究活動のさらなる活性化、人的資源としての会員数の拡大など、地道な基盤整備にまず力を注ぎ、組織・団体としての変革につなげていきたいとのお考えと承りました。

来年度はAOCP-3にてアジア地区を包含した国際会議を開催し、再来年度は保健物理協議会設立から50周年を迎えると聞いています。その半世紀に及ぶ日本保健物理学会の歴史の1ページにささやかながら足跡を残したことへの満足感と安堵感、そして将来の必ずやの発展への期待を記して、大会長印象記を終わらせて頂きます。

[この文章は、「保健物理」Vol.44, No.3, (2009)に掲載されたものを、許可を得て一部修正のうえ、転載したものです。]

## お知らせ

### 第12回「なるほど原子力展」のお知らせ

テーマ「地球を学ぶ！原子力を学ぶ！」

#### 原子炉運転見学会 & 原子炉施設見学会

身の回りの放射線と利用

放射線治療・PET診断

骨密度測定

電気自動車試乗体験

若狭の物産と福井の恐竜発掘

場所

近畿大学原子力研究所

日時

平成21年10月31日(土)/11月1日(日) 10:00~17:00

入場  
無料

世界一かわいい  
原子炉の運転  
見学会があるよ！



### 原研花だより



原子力研究所の敷地内で、  
花の苗などを育てて、  
学内の花壇に提供して  
います。

#### ★研究所行事報告

#### ◎研修会実施実績

##### 【原子炉実験・研修会】

1日コース

2008年11月21日 2008年12月 5日

2009年 1月 22日 2009年 1月 23日

2009年 7月 24日 2009年 7月 29日

2009年 8月 1日 2009年 9月 3日

2009年 9月 4日 2009年 9月 5日

### 卒業生の近況報告

#### 1993年度卒業 小久保友絵（株式会社アトックス）

原子炉工学科 原子力化学工学研究室(合田研)を卒業し、大学や病院付属の研究所、製薬会社などのアイソotopeを取り扱う施設において、機器の保守や作業環境測定など、RI管理区域の維持・管理業務に従事しています。弊社は全国の原子力発電所での保守管理が基幹業務ですが、私が在籍する大阪営業所は、いわゆる原子力ではなく、RI試薬を扱う規模の小さい施設が主な客先になります。大学時代に修得したことを基礎としながらも、応用すべき範囲がとても広く、当初は戸惑いもありましたが、多くの方々に支えられながら15年間無事過ごすことが出来ました。今後も、RI管理という側面支援ではありますが、施設の安全運営や、多くの研究・開発の進展に貢献できればと思っています



#### 2001年度卒業 酒井賀正（株式会社芝田化工設計）



原子炉工学科を卒業後、株式会社芝田化工設計に入社し、現在はPWRの取替炉心設計業務に携わっています。PWRの原子炉燃料は、約1年の運転サイクル終了ごとに炉心内に装荷されている原子炉燃料の約1/3を新燃料に交換します。この際、様々な安全基準を満たせるように炉心内での原子炉燃料の最適な配置(燃料装荷パターン)を決定するのが取替炉心設計です。現在の業務は原子炉工学科で学んだことが多々、参考になります。今後も原子炉工学科で学んだことを生かして業務を遂行し、また、原子力についてさらに学んでいきたいと思います。

#### 【文部科学省関連研修会・講習会】

教員免許更新講習 2009年9月19日～20日、10月4日、10月11日～12日 国際原子力原子力セミナー 2009年11月30日

### 管理室だより

☆ 平成21年度施設利用登録者 38 件 教職員 41 名  
(外部派遣等含む)  
学 生 79 名  
その他の 7 名

☆ 平成21年度近畿大学原子炉利用共同研究登録者 23件 59名

参加大学：名古屋大学、大阪府立大学、摂南大学、神戸大学、大阪大学2件、九州大学、広島大学2件、福井工業高等専門学校、大阪産業大学、東京大学、核融合科学研究所、兵庫教育大学、新潟大学、東海大学2件、福井大学、鳴門教育大学、大阪信愛女学院短期大学、岡山大学、産業医科大学、東京工業大学

☆ 原子炉施設等見学者数  
平成20年度 2,190 名  
平成21年度(平成21年4月～平成21年8月) 938 名

#### ☆ 原子炉運転実績

昭和36年度～平成20年度 累積運転時間 : 28,167 hr  
累積熱出力量 : 16,670 W·hr

平成20年度 運転時間 : 551 hr (306 hr)  
熱出力量 : 287 W·hr (210 W·hr)  
利用日数 : 140 日 (65 日)

平成21年度(平成21年8月末現在) 運転時間 : 208 hr (122 hr)  
熱出力量 : 115 W·hr (84 W·hr)  
利用日数 : 48 日 (25 日)

#### ☆ 検査等

( ) 内は共同研究利用状況

平成20年度第3四半期保安検査	平成20年12月 9日～10日
原子炉施設定期検査	平成21年 3月 9日～10日
平成20年度第4四半期保安検査	平成21年 3月 6日～ 7日
平成21年度第1四半期保安検査	平成21年 6月 18日～19日
平成21年度第2四半期保安検査	平成21年 9月 8日～ 9日

発行所 近畿大学原子力研究所

〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 TEL 06-6721-2332

Homepage <http://kuaeri.ned.kindai.ac.jp/>

発行日：2009年10月22日 発行責任者：伊藤 哲夫